

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 岡山市立足守小学校 (※正式名称を記載)

種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>

中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校

教員養成大学  専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例: 小中高一貫 )

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒701-1463

岡山県岡山市北区足守 789 番地

E-mail ashimoris@city-okayama.ed.jp

Website \_\_\_\_\_

幼児児童生徒数 男子 94 名 女子 91 名 合計 185 名

幼児・児童・生徒の年齢 6 歳～ 12 歳

## 2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校の学校教育目標は、「夢と希望に向け、思いやりの心と学ぶ意欲を持ち続ける足守の子どもを育てる」としており、ESD の実践を通して問題の解決や探究活動に主体的、創造的、共同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにすることを目標とした。

具体的には、①足守の町や人に係わる活動、②足守の自然に係わる教育、③地域の偉人に係わる学習を行った。

### ① 足守の町や人に係わる活動

3 年生は、近水観光協会ボランティアガイドの方の説明を聞きながら、足守の町を探索した。近水園、侍屋敷、歴史庭園、藤田千年治邸などの陣屋町足守の歴史的な建物を訪れて足守の歴史にふれ、分かったことをミニ観光ガイドとして広めるという視点でパンフレットにまとめた。5 年生も、長年ボランティアガイドをされている方の話を聞き、足守の町の魅力を再発見すると共に、このように足守の魅力を観光客や他の地域の方々に伝えている人々の思いに触れ、改めて足守の町の特徴をポスターにまとめて校内に広めた。

## ② 足守の自然に係わる活動

4年生は、足守川の調査を行った。足守川に入り、そこで採取した魚などを水槽で観察した。普段から身近にある足守川について、改めて観察したり調べたりすることで、今まで以上に足守川に親しみを感じ、足守川の豊かな自然に触れることができた。また、アスエコの講師の方から足守川に住んでいる魚の種類や水質について説明を受けた。また、県内等の川についても調べ、水の汚染が進んでいることを知り、環境問題やこれから自分達ができることについて考えた。学習したことをポスターにまとめ、3年生にプレゼンした。

## ③ 地域の偉人に係わる学習

5年生は、木下利玄について、その生い立ちや作品等について詳しく調べた。木下利玄は自然についての和歌が多く、利玄が寄贈したという近水園も多くの観光客が訪れる美しい庭園であり、利玄について学ぶ中で足守の良さを再発見することができた。調べてまとめた内容を「利玄祭」で全校児童に向けて発表した。6年生は、緒方洪庵の人物像や功績などを調べ、クイズなどを交えて資料にまとめ、「洪庵祭」において全校児童や緒方洪庵顕彰会の方々の前で発表した。洪庵の「人のために生きる」という生き方に共感し、自己の目標に向かってあきらめないで努力する姿勢を学んだ。



① の写真（3年 町探検）



② の写真（4年 足守川の生き物調査）



③ の写真（6年 洪庵祭）



③ の写真（5年 利玄祭）

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

ローカルな課題に対する協働実践の経験は、子どもの動機・自己有用感・肯定感・探求心を高めることができるので、学年に応じて足守の課題に取り組めるよう指導計画を立案している。主に生活や総合的な学習の時間を中心に活動に取り組み、社会や国語、道徳などに関連付けて、教科横断的に進めている。児童が主体的に取り組みやすいよう、各学年で体験活動の充実を図っている。思考ツールの活用推進や学習のまとめ方の見直し等を行い、指導方法の工夫改善に努めている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

高学年は自分たちが学習でまとめたものを全校児童や地域の方の前で発表し、中学年は自分の一つ下の学年児童の前でプレゼンをするなど、学習内容を自分達だけで完結させることなく伝達している。その結果、児童は、上の学年に進級した際にどのような学習に取り組むのかをよく理解している。また、お世話になった地域の方々に御礼を丁寧に伝えると共に、次年度に向けての協力を要請しておく等、連携をはかっている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

活動の後に担任と総合の担当で振り返りを行ったり、会に参加した他学年の教員から感想等を受けたりして、活動内容を見直している。成果としては、プレゼンや会に参加した下学年の児童が、自己を高める材料にすることができた点があげられる。また、課題としては、校外学習の際の引率者の確保や、自分たちの考えを地域に発信していく場の設定、新しい題材の開発等がある。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

学校通信で児童が行う ESD の取組の様子を発信し、地域の方々にも伝えている。これにより支援ボランティアの方々の協力が得られやすくなり、今年度3年生と5年生で新しい取組ができた。また、岡山子どもESDフォーラムで、6年生が1学期に行った『洪庵祭』の取組をパネルで紹介した。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

岡山県文化連盟の文化人材バンクを活用して、華道体験の講師に来ていただいた。また、近水観光協会ボランティアガイドの方に町案内をしていただく中で、「陣屋町足守」の魅力を教えていただいた。他にも、公民館、緒方洪庵顕彰会、地域の支援ボランティアの方々と連携を取って、話を聞いたり体験活動を行ったりした。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

国内外のユネスコスクールとの交流は行っていない。同じ中学校区にある蛍明小学校や足守中学校とは、ユネスコスクール推進校同士のつながりがあり、教員間で活動の様子を伝え合う等の交流をしている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

児童と教員のどちらも、地域の方々とのつながりが増えた。また、自分たちの住む郷土への愛着が深まっている。教育に関する総合調査の児童アンケート（4～6年）の結果において、「今住んでいる地域や岡山市の歴史に興味・関心がある」という項目の肯定が74%で、市と比べて14.2ポイント高かった。同じく自然についても74%で、市よりも8.4ポイント高かった。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

- 1年『むかしあそびをしよう』地域の高齢者から伝統的な遊びについて学び、伝統的なおもちゃを使って遊ぶ。
- 2年『どきどきわくわくまちたんけん』公民館や郵便局など、学区にある施設に行き、自分たちの住む町について知る。
- 3年『大好き、足守の町』足守特有の施設や園について自分達で調べ、実際に行ってみたり地域の方の話を聞いたりする中で、足守の自慢を見つける。
- 4年『守ろう！足守の自然 つなごう！私たちの未来』足守の自然を探り、現状や今と昔の違いを詳しく知るにより、これから自分たちができることについて考える。
- 5年『足守の人々から学ぼう』足守に住み、足守を支える人々に出会い関わることで、文化や産業を受け継いでいくことの大切さを知る。
- 6年『足守の文化と歴史』地域学習の総まとめとして、自らの課題をもって学ぶことで、地域の一員としての自覚と誇り、地域への愛着をもつ。